

令和 5 年度 園評価書

園番号 22 園名 静岡市立中田こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
すぎがいつばい こども園	やってみよう・ もっとやってみよう ～あきらめない レッツ チャレンジ!～	自分で遊びに必要な物や場所等を選び工夫したり試したりしながら繰り返し遊ぶ	子ども達の興味や発達に合わせて環境を整え、遊びに必要な素材や用具を用意していくことで、自分達で遊ぶ場を作ったり、素材、用具を選び、繰り返し遊ぶ姿が見られるようになってきている。一方で、素材や用具を使いだけ使い、そのままになっている事が多いため、今後は、必要量や片付け等の環境を見直し、大切に扱うようにしていきたい。	A	A	・環境や素材を整え、たくさん用意することで、子どもたちにたくさん工夫や学びができるように工夫している ・子どもたちに十分な時間を確保し、安心してゆったりと活動できている ・教師が子どもに寄り添い、一緒に考え、見聞が姿勢で保育を行っており、自分と、あるいは自分たちで考えて活動する主体性が育っている	・素材や用具をより大切に使えるように、必要量を子どもたちと一緒に確認したり、片付けやすい環境について見直しをしりていく ・友達同士でつなぐ合うことも大切ということを踏まえ、友達と意見が違った時にはどのようにすればよいかを一緒に考え、その場に応じた援助をすることで、友達と一緒に遊びを進めたい楽しさを感じられるようにする
		友だちや保育教諭と相談したり、話し合ったりしながら、一緒に遊びを進めていく	子どもの気持ちに寄り添い、見守ったり、自分の思いを表現することを積み重ねてきた事で、子ども達が「やりたい」「やってみよう」等の思いを伝え合いながら遊ぶ姿が見られるようになってきている。一方で、友達の話や聞けなかったり、強い口調で言うてしまったりするなどの姿も見られている為、友達と意見が違った時はどのようにすればよいかを、保育者と一緒に考え、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたい。	A	A	・多様な声が叫ばれる中、子どもだけでなく家庭の状況も把握し、保育に活かしていることに安心した。親とのつながりや話し合いの機会を大切にしてくれていてありがたい	・保育教諭も一緒に遊びながら、子どもの興味を捉えて環境を整えたり、挑戦する姿を励ましたりし、「やったらできた!」という達成感を感じられるようにしていく
		様々な運動遊びを経験する中で、楽しんで、挑戦したりする	運動遊びが苦手な子や、興味を示さない子ども楽しめるようなアイデアを職員に募集し、廊下にウレタン棒を使った1本橋を作る等の環境を整えたことで、子ども達の「やってみよう」「挑戦してみよう」という姿が増えてきている。運動遊びに対して苦手意識がある子には、今後も継続した支援を行い、保育者も一緒に体を動かして遊びながら子ども達の興味を捉え、楽しめるような環境を整えたり、挑戦する姿を励ましたり認めたりし「やったらできた」という達成感を感じられるようにしていきたい。	A	A	・遊びや運動の表を整理し、系統的に取り入れていることで、身体を上手に動かす運動する力が育っている	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	生活や遊びの中で子どもの思いを受け止め、応答的に関わる	子ども達へ声かけを肯定的にしたり、その子のペースに合わせて話を聞くなどしてきたことで、子どもたちが、自分の思いを様々な方法で自己表現する姿が増えてきている。一方で、子どもとの応答的に関わりに対する職員の意識に差がある為、全職員が、まずは子どもの思いを受け止めることを実践していきたい。園内研修や、学年会議等を活用し、職員が連携して応答的に関わるができるようにしていきたい。	A	A	・教師には、寄り添う力が大切。子どもを受け止め、子どもの様子から気づき力や身につけたい	・全職員が、子どもの思いを受け止めるという意識を持ち、実践につなげる ・園内研修などを通し、園外の方について学びを深めたり、実践の中で良い関わりを認め合ったりしていく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	様々な家庭の背景や仕事状況に配慮しながら、個々に合わせて対応を行うと共に、外国籍の家庭には、より丁寧に関わるよう心掛けた。早番から遅番まで利用する子どもが多いが、保育室を順番、早番の部屋として使用するため、ゆったりとした空間を作る事難しさも感じている。園で長時間過ごす子も、ゆったり過ごすことが出来るよう、早番遅番用の玩具を用意する等ゆったり過ごせる環境を整えていきたい。	A	A	・多様な声が叫ばれる中、子どもだけでなく家庭の状況も把握し、保育に活かしていることに安心した。親とのつながりや話し合いの機会を大切にしてくれていてありがたい	・日中の保育とつながった遊びや、早番遅番の時間だけ楽しめる遊び等、状況に応じた教材を充実させ、長時間過ごす子どもたちがよりゆったりと過ごせる環境を整えていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもと一緒に遊ぶ中で、子どもの姿を捉え、具体的な言葉で意欲を引き出す	子どもたちと一緒に遊びを楽しむ中で「やってみよう」という気持ちを大切に、具体的な言葉で伝えていくことを意識して関わるようにしたことで、保育者が「○○やってみよう」という姿から自分で「○○したい。」「○○してみよう。」という姿に変化してきている。思いを言葉で表すことが苦手な子どもは、姿を見守りながらその子の思いに共感し、子どもに思いを寄り添った言葉かけが出来るように、具体的な言葉かけの研修等を取り入れ、職員一人ひとりのスキルを高めていきたい。	A	A	・具体的な声かけを大切にしながら、子ども達の意欲や主体性を大切に活動している
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定し、訓練を実施後、課題や改善策を明確にして、次の訓練に活かす	毎月、様々な状況を想定した避難訓練や不審者訓練を行う中で、職員も子どもも、スムーズな避難が出来ようになってきている。また、訓練後に出てきた反省や課題を職員会議で共有する事で、フォローが必要など異なるや、園全体での動きにも活かせるようになってきている。火災が起きた場所によって、避難経路が異なることや、前月の反省を活かすような意識を持つことが出来るように、今後も様々な想定での訓練を継続して行い、次の訓練に活かせるようにしていきたい。	A	A	・日にちを合わせて、避難訓練を合同実施したい ・反省の共有に時間がかかっている為、早めに共有した方がよいことは、昼の打合せを利用してもっと共有したい	・今後も様々な想定での訓練を継続して行う ・反省の共有に時間がかかっている為、早めに共有した方がよいことは、昼の打合せを利用してもっと共有したい
		(1)健康教育の充実	子ども達が楽しみながら、食育について知ることが出来るように、劇や写真等を取り入れた集いを実施する事で、食材や季節の食べ物についての興味を広げていく。また、毎月30日のカミングデーには、栄養士が各クラスをまわって噛むことの大切さを伝えているが、カミングデーの浸透や、よく噛むという意識がまだ不十分である。大人が噛む様子を見せたり、カミングデーの日にポスターを掲示する等し、噛む事への意識を高めていきたい。	B	B	・定期的な食育活動やカミングデーを実施し、栄養や食事の大切さを伝えていく ・園で十分に取組んでいることを考えると、家庭の役割が大きいと感じる	・日々の食事の中で、よく噛むことが出来るような言葉かけをし、大人が噛む姿を見せたりしていく ・カミング30のポスターを掲示する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	「よく噛んで食べる」大切さや方法を知らせ、子どもが意識して取り組む	子ども達が楽しみながら、食育について知ることが出来るように、劇や写真等を取り入れた集いを実施する事で、食材や季節の食べ物についての興味を広げていく。また、毎月30日のカミングデーには、栄養士が各クラスをまわって噛むことの大切さを伝えているが、カミングデーの浸透や、よく噛むという意識がまだ不十分である。大人が噛む様子を見せたり、カミングデーの日にポスターを掲示する等し、噛む事への意識を高めていきたい。	B	B	・定期的な食育活動やカミングデーを実施し、栄養や食事の大切さを伝えていく ・園で十分に取組んでいることを考えると、家庭の役割が大きいと感じる	・日々の食事の中で、よく噛むことが出来るような言葉かけをし、大人が噛む姿を見せたりしていく ・カミング30のポスターを掲示する
		(1)健康教育の充実	子ども達が楽しみながら、食育について知ることが出来るように、劇や写真等を取り入れた集いを実施する事で、食材や季節の食べ物についての興味を広げていく。また、毎月30日のカミングデーには、栄養士が各クラスをまわって噛むことの大切さを伝えているが、カミングデーの浸透や、よく噛むという意識がまだ不十分である。大人が噛む様子を見せたり、カミングデーの日にポスターを掲示する等し、噛む事への意識を高めていきたい。	B	B	・定期的な食育活動やカミングデーを実施し、栄養や食事の大切さを伝えていく ・園で十分に取組んでいることを考えると、家庭の役割が大きいと感じる	・日々の食事の中で、よく噛むことが出来るような言葉かけをし、大人が噛む姿を見せたりしていく ・カミング30のポスターを掲示する
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ケース会議や特別支援研修を通し、一人一人に合った支援方法を共有し、同じ手立てで関わる	個々の育ちや、発達に合わせたサポートプランを3カ月に1度作成し、支援の仕方や対応方法について等保護者と面談を行い、共有できるようにしている。また、担当保育者が不在の日にも同じ手立てで関わるように、個々の対応の仕法等について話し合った内容を書面にし、職員会議時に周知するようにしているが、場面によっては同じようにならないこともあり、難しいと感じることもある。今後も、同じ手立てで支援ができるような会議を定期的に行い、支援児や気になる子への対応について、全職員で学び合えるようにしていきたい。	A	A	・会議時に子ども理解や指導方法などの周知を行っている ・保護者との情報共有がどこまで行われているか ・保護者の不安についても、相談窓口の一つとして応えられるようにしたい	・ケース討議を定期的に行い、支援児や気になる子への対応方法について共有し合う
		(1)組織体制の充実	分掌の仕事や役割を明確にし、職員全体に対しスムーズな情報伝達、共有ができるようにする	分掌の仕事や役割を明確にし、職員全体に対しスムーズな情報伝達、共有ができるようにする	B	B	・組織を細分化すれば個々の負担は減るが、全体のねらいが見えなくなり、ただただ活動ありきになることを気をつけたい
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修主任を中心に研修体制を整え、役割を明確にし、ポイントを抑え効率よく進める	公開保育や園内研修の事前、事後研修の内容や進め方を、研修部で事前に話し合う事で、視点が明確になり、短時間でも内容の濃い話し合いとなっている。また、日誌や月の振り返りシートの書きを検討したことで、昼の時間を有効に使うための研修を行う事ができている。クラスの課題が園の課題となっていない事が多いため、課題を解決するための方法が学べるような話し合いの場を作り、次の公開保育につながるようにしていきたい。	A	A	・日々忙しい勤務体制の中、工夫して研修を行っていることに驚く。日常的な学び合いを大切にしていきたい。	・研修の中で出てきた課題を、クラスでの課題として捉えるのではなく、園の課題として学び合っていく
		(1)教育・保育環境の充実	子ども達が「やってみよう」と思える環境作りや瞬時の再構成を行う	子ども達と一緒に遊ぶ中で、子どもが今「何に興味を持っているのか」「何を楽しんでいるのか」等一人ひとりの育ちや、発達に合わせたサポートプランを3カ月に1度作成し、支援の仕方や対応方法について等保護者と面談を行い、共有できるようにしている。また、担当保育者が不在の日にも同じ手立てで関わるように、個々の対応の仕法等について話し合った内容を書面にし、職員会議時に周知するようにしているが、場面によっては同じようにならないこともあり、難しいと感じることもある。今後も、同じ手立てで支援ができるような会議を定期的に行い、支援児や気になる子への対応について、全職員で学び合えるようにしていきたい。	B	B	・園の教育、保育を充実させるのは、教師の子ども理解に尽きる。子どもの言動から多くのことに気づく力が必要になる。教師力をつけたい。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者参加の行事を計画したり、子どもの様子を口頭や紙面で伝えたりしながら保護者の子育てを支えていく	保護者参加の行事が戻りつつあり(参加会、運動会、発表会)子ども達の成長を保護者に見ていただくことができ、共に成長を感じる事が出来た。一方で、早番遅番にかかる保護者とのコミュニケーションが取りづらかったり、駐車場の混雑状況から、ポートフォリオや玄関ボードをゆくり見ることができないという保護者の声もあったため、自身が早番、遅番時に、普段話ができない保護者に声をかけたり、送迎時に伝えたい内容を簡潔にまとめてお伝えできるようにしていきたい。また、令和6年度からタブレットが導入される為、有効に活用できるように、検討していきたい。	B	A	・ポートフォリオの絵やコメントがとても上手 ・タブレット利用を保護者との連携に活用してほしい	・自身が早番遅番時に、普段話が出来ない保護者に声をかける意識を持つ ・タブレットを有効活用する
		(1)近隣の園との連携の推進	他園や近隣校の、公開保育や授業参観に参加し合う中で情報交換を行ったり、職員会議内で学びを報告し合ったりすることで、出てきたアイデアやアドバイスをそれぞれの保育に活かすことができてきた。また、園のお正月飾りを伊河麻神社に持っていったり、コロナウイルスの5類移行後からは、いきいき会などを通して地域の方との交流を図ることも出来た。一方で、地域のある公園等を知らなかったり、散歩に出掛ける機会が少なかったりしているため、地域を知る為にも、散歩の計画を立てたり、お散歩マップを作成するなどし、職員間で情報を共有できるようにしていきたい。	B	B	・小学校では、来年度スタートカリキュラムの実施や園との協同的な研修を進めたい ・1年生の生活科学習(おもちゃランド)では、共通した学びを進めたい	・職員同士の情報交換や交流を行っていきたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の資源を教育保育に活かし、教育保育につなげていく	地域の公園や神社などに散歩に出かけ、自然物(どんぐり、落ち葉等)を持ったり、伊河麻神社の輪くぐり体験を遊びの中に取り入れたりとすることができた。また、園のお正月飾りを伊河麻神社に持っていったり、コロナウイルスの5類移行後からは、いきいき会などを通して地域の方との交流を図ることも出来た。一方で、地域のある公園等を知らなかったり、散歩に出掛ける機会が少なかったりしているため、地域を知る為にも、散歩の計画を立てたり、お散歩マップを作成するなどし、職員間で情報を共有できるようにしていきたい。	B	A	・地域のみなさんの協力をたくさん得ている ・今後も地域を知り、地域での学びにつなげてほしい	・職員が、地域資源をもっと保育に取り組みたいという意識を持つ ・遊樂や月案に散歩の計画を盛り込んでいく